

「日本語で スピーチ」 を振り返る

文集



一般財団法人国際都市おおた協会
Global City Ota Cooperation Association (GOCA)





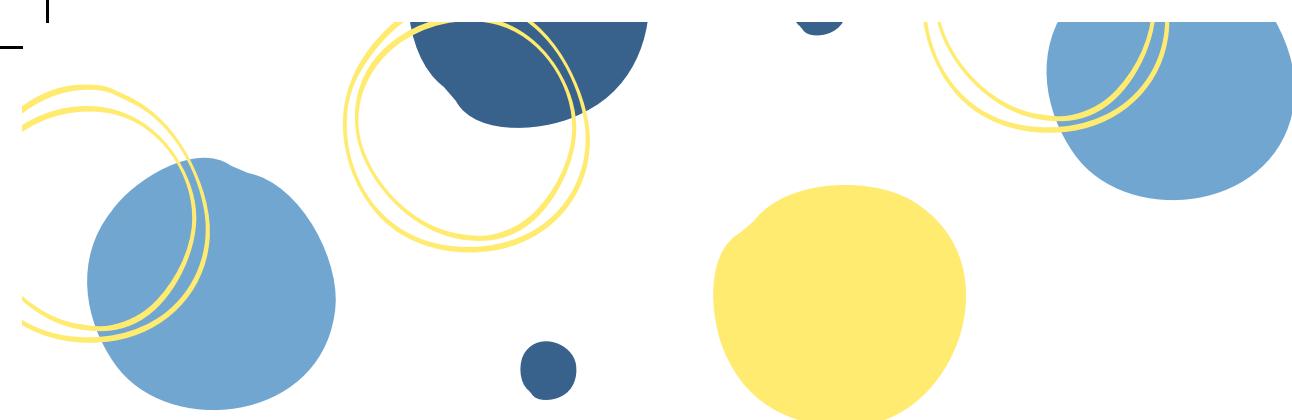


TABLE OF CONTENTS

1	はじめに	1
2	「日本語でスピーチ」の近年の概要	3
3	発表者のいま	5
1.	龔 利文さん（中国）第21回大会参加（2015年）	5
2.	譚 振華さん（中国）第21回大会参加（2015年）	6
3.	ババクロワ サオダットさん（ウズベキスタン）第22回大会参加（2016年）	7
4.	グエン タン ドンさん（ベトナム）第22回大会参加（2016年）	8
5.	張 盈婷さん（中国）第23回大会参加（2017年）	9
6.	イクー ウィディアニンシーさん（インドネシア）第23回大会参加（2017年）	10
7.	シドウ ムハンマド ダニシさん（パキスタン）第24回大会参加（2018年）	11
8.	バタライ サクラさん（ネパール）第24回大会参加（2018年） 第25回大会参加（2019年）	12
9.	バタライ マニシャさん（ネパール）第25回大会参加（2019年）	13
10.	劉 穎青さん（中国）第25回大会参加（2019年）	14
11.	叶 紫さん（中国）第25回大会参加（2019年）	15
4	実行委員からのコメント	17
1.	琴崎 馨さん：第22回大会（2016年）、第23回大会（2017年） 第24回大会（2018年）、第25回大会（2019年）	17
2.	黃 子玲さん：第22回大会（2016年）	18
3.	青山 春樹さん：第23回大会（2017年）、第24回大会（2018年） 第25回大会（2019年）	19
4.	横山 美穂さん：第24回大会（2018年）、第25回大会（2019年）	20
5	大田区内の日本語教室一覧	21

1

はじめに

大田区における「日本語でスピーチ（以下、「スピーチ」という。）」は、地域にゆかりのある外国人の日本語学習意欲の向上や国籍を超えた相互理解の促進を目的として、1995年に記念すべき第1回がスタートしました。それ以降は、2019年までの25年（25回）もの長きにわたって開催され、これまで10を超える国々から200名以上の方々が参加してきました。

第1回から第22回までが大田区、第24回（2018年）以降は国際都市おおた協会が主催を担ってきましたが、運営の主体は区民により結成された実行委員であり、区や協会が後方から実行委員をサポートするという形式で実施してきました。

発表者は、独力または自身が通っている日本語学校や日本語教室の支援者からのサポートを受けながら、日々感じていることや将来の夢などを日本語で話します。「日本と母国との懸け橋になりたい」、「大好きな日本で夢を叶えたい」といった発表者の心の込もったメッセージは、これまで多くの聴衆を惹きつけてきました。そして、大会に関わる全ての人が、「日本人と外国人が歩み寄り共に生きていくこと」の意味とその重みについて思いを致してきました。

そんな中、2020年の春以降は、新型コロナウィルス感染症の出現により2年連続大会中止を余儀なくされました。加えて、「日本語教育機関関係6団体」が2022年3月に公表した調査によると、度重なる入国制限により、留学生を含む新規訪日外国人及び日本語学習者が著しく減少したことで、多くの日本語学校が事業停止や継続困難な状態にあると言われています。

そのような困難な状況下、当協会では、この2年間は、スピーチの意義を見つめ直し、外国人人材の重要性を再認識する有意義な期間であったと捉えています。それは、スピーチの主役である発表者、スピーチの運営を担った実行委員の方々、発表者を支えた支援者にとっても同様ではないかと考えています。

そこで、当協会は、スピーチに関わった全ての方々へ敬意を表しつつ、これまでの発表者の足跡と功績を次世代につなぐ文集をつくることにしました。

本文集で登場する執筆者は、その他大勢いる発表者や関係者のほんの一部にすぎません[1]。ただ、過去の発表者が当時の心境や現在の様子を書き記すことで、日本語を勉強している、または、これから日本語を勉強しようとしている外国人やそれをサポートする支援者の良き励みとなり道標になると考えています。また、発表者の努力や目的達成までのプロセスを広く公表することで、他の多くの外国人の日本語学習意欲や地域社会に溶け込もうとする意欲が向上し、地域社会における多文化共生意識がこれまで以上に醸成・浸透されることを強く期待しています。そして、過去の発表者が自らを省み、新しい一步を踏み出す契機にしてほしいと願っています。

最後に、本文集に寄稿して下さった執筆者をはじめ、これまでスピーチに関わって下さった全ての方に心から感謝を申し上げます。そして、少しでも多くの方々が本文集を手に取っていただき、彼らの思いが少しでも皆様の心に届くことを祈念しております。

[1] 記憶喚起が難しく、所在把握が難しい方々が多いため、過去5年（5回）の発表者とスピーチ関係者（主に実行委員）にのみ執筆を依頼しました。

2

日本語でスピーチの 近年の概要

1. 「日本語でスピーチ」とは

日本語を母語としない外国につながりがある方々による日本語でのスピーチ発表の場。優秀者には賞が授与される。審査を待つ間には、発表者と来場者が交流する時間も設けられ国際交流の場となっている。

2. 開催目的

- ・日本語を学習している外国人の方々の学習成果発表の場
- ・日本人と外国人の相互理解と交流を深める場
- ・日本語学習の意欲向上

3. 開催概要（第21回～第25回）

- ・第21回　　日時：2015年10月11日（日）13:30～16:00
場所：大田区民ホール・アリコ展示室　発表者：10名　来場者：120名
主催：大田区
- ・第22回　　日時：2016年10月9日（日）13:30～16:00
場所：大田区役所本庁舎201・202会議室　発表者：13名　来場者：120名
主催：大田区
- ・第23回　　日時：2017年9月24日（日）13:30～16:00
場所：大田区民ホール・アリコ展示室　発表者：13名　来場者：120名
主催：大田区
- ・第24回　　日時：2018年11月25日（日）13:30～16:00
場所：大田区役所本庁舎201～203会議室　発表者：10名　来場者：120名
主催：国際都市おおた協会
- ・第25回　　日時：2019年12月1日（日）13:30～16:00
場所：大田区民ホール・アリコ展示室　発表者：10名　来場者：100名
主催：国際都市おおた協会

※記憶喚起が難しく、所在把握が難しい方々が多いため、過去5年（5回）の出場者とスピーチ関係者（主に実行委員）にのみ執筆を依頼しました。

4. テーマ一覧（第21回～第25回）

第21回	大田区での生活、わたしの夢、日本語を勉強して感じたこと
第22回	日本での面白い体験談、日本での生活で感じたこと、わたしが日本語を勉強することになったきっかけ
第23回	日本と母国の文化の違い、私の夢、日本の好きなところ、隣近所との付き合い方と仲間に入る方法、生活習慣等の違いでなかなか理解してもらえなかった事柄等、自由（自分で決めたテーマ）
第24回	大田区で生活して感じたこと、日本の好きなこと嫌いなこと、日本の母国の違い、日本に来てやりたいこと、日本で困ったこと、自由（自分で決めたテーマ）
第25回	自由



第24回



第25回

3

発表者の今

1. 龔 利文さん (中国)

第21回大会参加 (2015年)

2015年大田区日本語スピーチに参加したキョウリブンと申します。33歳です。今は世田谷区奥沢に住んでいて、5歳の男の子と2歳の女の子を育てています。日常は、家族の生活、健康、そして子供の教育について主人と一緒に考えています。さ

日本に来て、はじめの2年間は大田区の蒲田に住んでいました。大田区が大好きです。今、大田区の近くに住んでいて、すごく親しみがあります。



2015年当時



2022年現在

皆様のおかげで、また、阿部先生の指導のおかげで2015年大田区「日本語でスピーチ」に参加しました。スピーチ準備のときに阿部先生は、スピーチの内容や、スピーチの時注意することまで、細かく丁寧に教えてくださいました。スピーチの当日、お世話になっていた先生たちや一緒にボランティア教室に通っていた友達がわざわざ会場に来てくれて、応援してくれました。

すごく緊張しましたけれど、皆様の励ましもあって、最後はゴールド賞を受賞しました。皆様に心から感謝しました。

日本語ボランティア教室の先生たちのおかげで、日本語を少しづつ身につけて、日本での生活が楽になりました。日本語でスピーチを通じて、多くの人を知って、多くの文化を理解して、和を少しづつ広げました。そして日本人たちの真面目さと優しさを深く知ることができて、よかったです。この精神は私の生活に影響続けています。これからも、日本人に対して深い愛情を持ってお付き合いしていこうと思っています。

2. 譚 振華さん（中国）

第21回大会参加（2015年）

現在の自分

来日以来、ずっと大田区に住んでいます。最近はベンチャー企業に転職して、ロボティクスを利活用して飲食店など向けの調理ロボットのメカ設計を担当しています。

当時の感想

国際都市おおた大使（当時は「大田区観光大使」だった）をやっていたので、その活動内容や自分の感想を紹介したいので、スピーチコンテストに参加しました。人生で初めてのスピーチだったので、テーマ・原稿などについてあまり深く考えなかったです。観光大使の活動報告みたいな文章を書いて発表しましたが、聞いている方にとって、やはり内容がちょっとつまらなかったです。印象深かったのは、観客席のテーブルにお菓子などをいっぱい置いていたので、一緒に来た子供が大喜びでした。

今への影響

スピーチコンテストに参加してとても良かったと思います。当時の発表は残念な所がたくさんあったが、良い発表とは何かを身近で勉強しました。実際に仕事においてもプレゼンする機会がたくさんあるので、スピーチコンテストで学んだことを思い出して、活用しています。そして自分の性格が内向きですが、このように大勢の人の前でスピーチすることを挑戦したら、案外と緊張感を抑えて最後まで発表しました。それ以来に、人の前にプレゼンする自信を付けました。

2015年当時



2015年当時



2022年現在



3. ババクロワ サオダットさん (ウズベキスタン)

第22回大会参加 (2016年)



2016年当時
後方中央がババクロアさん

日本語を学び始めるようになったきっかけは、私の結婚です。私は、ウズベキスタンで大学で勉強しているとき、日本で働いていたウズベク人と結婚しました。結婚してから2ヶ月目に主人が日本に行きました。私はウズベキスタンの大学へ学生生活に戻りました。

私の大学で日本語の講座がありませんでした。日本を勉強したいと思い、日本語の本を探しました。なかなか見つかりませんでした。主人のおかげで、「みんなの日本語」という本を見つけました。ウズベキスタンでその本から、日本語を少し勉強しました。

2016年6月にウズベキスタンの大学を卒業しました。7月に日本にきました。最初は、日本で生活するために日本語を勉強しなければならないと思っていました。しかし、日本に来て、日本を自分の目で見て、日本人と会って、いろいろ交流できて、日本語を勉強したい気持ちが強くなりました。

例えば、日本人がいつも笑顔で挨拶をして、話してくれます。日本人は、自分が話している相手のことを大事にします。私は英語がわからないのですが、日本人の先生は、一生懸命に日本語を私に教えてくれます。日本人の良さが好きになりました。以上、私の日本語を勉強し始めたきっかけについて書きました。

これから、目的について書きます。これからの目的は、日本語をもっと勉強して、日本で歯科学院に入学することです。

私の話を読んでいただき、ありがとうございました。

結婚して日本語を 勉強し始めた私

私はババクロワ・サオダットです。中央アジアのウズベキスタンから来ました。日本語の勉強を始めたきっかけについて書きます。



2022年現在
(向かって左がババクロワさん)

4. グエン タン ドンさん (ベトナム)

第22回大会参加 (2016年)

私はベトナムのホーチミン市から来ました。現在、大田区に住んでいます。平日のお仕事は医療 AI エンジニアですが、週末に国際都市おおた大使の役を5年間勤めて、多文化共生、観光、文化、スポーツ、産業、教育などの分野で、大田区の魅力や情報の積極的な発信や、自国の文化の発信、区民との交流活動を行っています。

32才の時に「第22回日本語でスピーチ2016年」に参加しました。参加したきっかけは大田区内のボランティア日本語教室から案内があって、年齢や学習レベルに関わらず誰でも応募できます。当時、たくさんの国から子供も大人も発表しました。そして一番印象に残っているのは小学生の女の子のスピーチでした。彼女は一年前に日本語が話せない中国人が大田区にある小学校に転校しました。学校で友達ができるように一所懸命日本語を勉強しました。スピーチの原稿を見ず、自分の心から内容を伝えて皆が感動しました。

「日本語でスピーチ」に参加した経験が、今現在の自分の人生に役に立つと思います。例えば、仕事でプレゼンをするとき、練習と準備はとても大事です。話すときは胸を張った姿勢で笑顔を心がけています。聴いて下さる人に目線を向け、話の大変な部分や強調する部分は、ちょっと間をおいてから、大きな声でゆっくり話します。当時、先生から教えて貰ったスピーチのポイントは一生忘れられません。

私が発表したスピーチのタイトルは「私はトンネルになります」です。5年の歳月を経て、ベトナムと日本との関係はますます深くなっています。ベトナムからの実習生も留学生も増えてきています。厚生労働省の発表している「外国人雇用状況（令和2年10月末）」によれば、日本国内にいるベトナム人は40万人を超え、過去5年間でもっとも急激に増えている外国人です。ベトナム人の若者は真面目で勤勉ですが、ベトナム人による犯罪が倍増しています。このため、私はベトナム人の若者に日本を理解し、好きになってもらいたいと、日本でのルールと日本人の考え方を彼らに教えています。これからもベトナムと日本の文化交流や日本語の勉強を続けて、日本の良さをベトナムの若者に伝え、両国を結ぶトンネルになります。



2016年当時



2022年現在

5. 帳 エイティ 盈婷さん（中国）

第23回大会参加（2017年）



2017年当時

2016年8月、日本に参りました。毎週仕事をしながら日本語を勉強して充実した生活を送っていました。2017年6月頃日本語クラスの中山勝芳先生が「大田区スピーチ大会に参加しませんか」と誘われました。子供の頃から人の前で話すとすぐ緊張してしまう私は「無理かな…」と迷ったのですが、周りの人たちの励ます言葉で「やってみよう」と思いながら申込みを出しました。

原稿の準備からリハーサルまで中山先生に色々お世話になりました。文章の語彙と内容など一々チェックし、スピーチの発音とイントネーションなどを細かく指導していただきました。すごくいい勉強になりました。残念ながら、大会に優勝できませんでした。先生にすごく申し訳ないですが、何回も鏡を見ながら精一杯練習していた自分に、後悔なんか一切ございませんでした。

一時帰国して2019年5月再び日本に参りました。職場で日本語でのコミュニケーションがうまくできていて、教えていただいたボランティアの日本語先生たちに感謝申し上げます。

日本語を勉強することには、口を開けて話し始めることは何より大事です。日本語試験資格を持ってもなかなかコミュニケーションができない外国人が少なくないと思います。そこで、一回スピーチ大会に参加してみたら、「ああ、そうか、そういうことか。」目が覚ましたようにもっと日本語を理解することができます。そもそも自分の癖などは気づいていないかもしれません、こういうチャンスで自分の弱さが明確させましょう。さらに、いつか自分が自信を持ちながら日本語で話せることを信じて参りましょう。



2022年現在

6. イクー ウィディアニンシーさん（インドネシア）

第23回大会参加（2017年）



2019年当時（向かって右がイクーさん）

※イクーさんは、第24回、第25回は実行委員として参加し、司会も務めました。

今は2021年3月に男の子が生まれました。はじめての子育ての中で戸惑うことがあります、大田区の児童館のスタッフの方やママ友に相談することで少しずつ問題を解決しながら充実した日を送っております。児童館にはじめて行くときはドキドキしましたが、今までの経験を思い出し自分から話しかけることができました。

まだ日本語がうまく話せませんが、同じ悩みを抱えている人がいるので多少言葉が違っても皆さん理解してくれます。言葉が通じたときはとてもうれしい気持ちになります。もっと、もっと話したくなります。そして相手のことをもっと理解したくなります。これからもたくさん勉強して世界を広げていきたいと思います。

コロナ渦で大変な時期ですが、気を付けながら生活ていきたいです。

日本での生活

私は2017年「スピーチコンテスト」に出場しました。主人と日本語教室の先生方に助けて貰いましたが覚えるのが大変でした。結果は残念でしたが、先生方の推薦もありスピーチコンテストの司会を二年連続でさせていただきました。色々な方と話すことができてとても良い経験になりました。この経験が日本人の方々と交流することの力になっております。



2022年現在

7. シドウ ムハンマド ダニシさん (パキスタン)

第24回大会参加 (2018年)

こんにちは、シドウ ムハンマド ダニシです。

現在、私は京都先端科学大学工学部の1年生です。機械電気システム工学科で、プログラミングなどを学んでいます。

私が高校1年生のときの夢は専門学校に行き、2年間勉強し、整備士2級を取り、5年間工場などで働き、その後自分の会社を始めたいというような感じでした。しかし、私が高校3年生の時に、勉強が楽しくなり、就職するか進学するか迷っていた際に、アルファロメオの社長さんがディーラーとして働かないかと言われたのですが、親には、やはり大学に行き、4年間勉強して本当に行きたい会社やしたい仕事に就職しなさいと言われました。そこで、私も色々と調べ始め、英語で工学などの分野を学ぶことのできる大学を探し始めました。しかし、やはり日本でそのような大学を見つけることは困難でしたが、京都に私の求めていた大学あることが分かり、その後、見学に行くと非常に魅力的な学校だったので、この大学に決め、現在に至ります。

コンテストに参加した際はすごく緊張していましたが、いざスピーチを始めると、自分の思いをみんなに伝えたいという気持ちがわいてきたので、緊張することは次第になくなっていました。しっかりと自分の思いを伝えられたと感じました。さらに、大勢の人の前での発表は大変だったのですが、今は少し慣れてきたと感じます。以前と比べると、緊張感がなくなり、人前で話すときの自信がついたとも感じました。今の大にきてからもそのスキルはとても役に立っていると感じます。さらに、賞もいただくことができ、とても嬉しかったです。私の家族も喜んでくれました。

また、自分の夢についてなのですが、スピーチする前と後では少し変わったと感じます。最終的には進みたい道は同じですが、今は4年間でプログラミングや電気自動車の事を多く学び、その後就職し、5年間会社で働き経験を積んだ後、自分の会社を始めたいです。

最後になりますが、私は今もスピーチコンテストを出た際の写真を見返すことがあります。いつもすごく良い経験になったと感じます。さらに、先生方のご協力などもあり、自分の目標に近づくことができ、自分のことを考える良い機会にもなったとも思います。



2018年当時



2018年当時

8. バタライ サクラさん（ネパール）

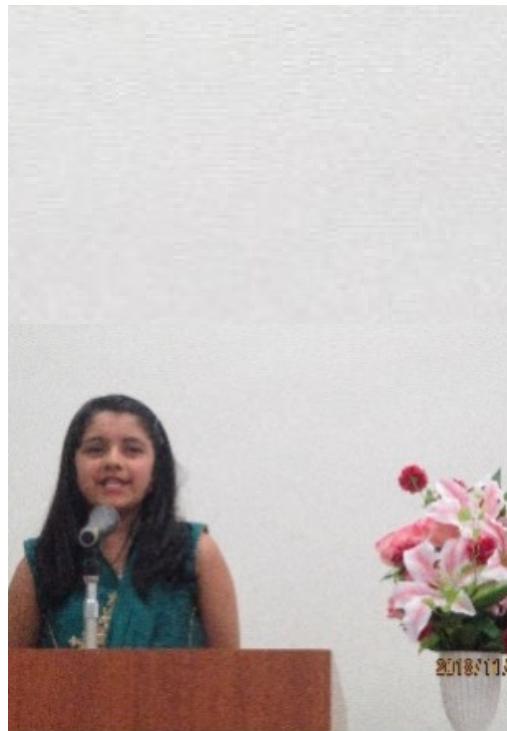
第24回大会参加（2018年）
第25回大会参加（2019年）

変わったこと

「日本語でスピーチ」で発表して、二年が経ちました。発表のときは小学校6年生でした。今は中学2年生です。バドミントン部に所属していて、部活を一生懸命がんばっています。一年後に高校受験があるので、行く高校を探しながら、勉強をがんばっています。

中学に入学したときは、自分は日本語が少しはできるので、勉強はできるだろうと思っていました。しかし、自分の想像とは全然違っていました。小学校に比べて小テストが少なく、1回の試験の範囲が広くて、慣れるには時間がかかりました。でも、分からないことがあったら、先生や友達に訊いて、乗り越えました。今は、先生や友達が話したことははっきり分かるので、以前に比べて楽に感じます。友だちもいっぱいできて、毎日の学校生活を楽しくすごしています。

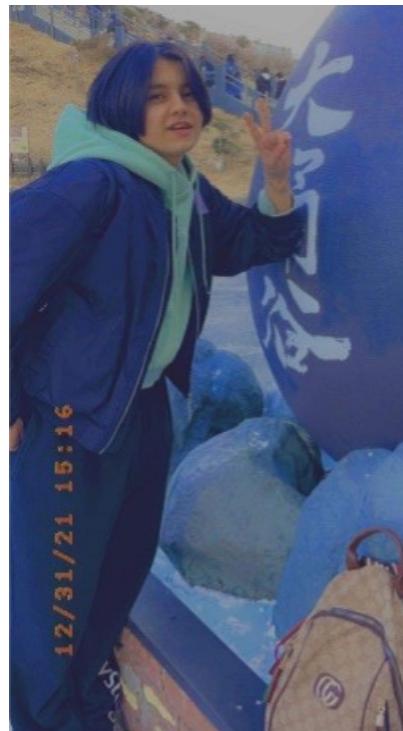
「日本語でスピーチ」のときは、自分の将来の夢は医者になることだと言っていましたが、現在は、ITプログラミング言語を勉強したいと思っています。今はまだ中学生ですから、今後いろいろな体験をするし、さまざまな夢も浮かんでくると思いますが、ITプログラミング言語を勉強する夢だけは変えたくないです。ITを勉強するためには、パソコンの使い方をたくさん練習しないといけません。これをしっかり勉強したいと思っています。ずっと日本語を勉強しているので、自分が今まで習った英語を忘れないようにしたいと思います。



2018年当時



2019年当時



2022年現在

9. バタライ マニシャさん（ネパール）

第25回大会参加（2019年）

今の自分

私は、高校1年生のときに初めて「日本語でスピーチ」に参加しました。その時は、私は日本に来て2年目で、日本語がまだ十分ではありませんでした。私は、「日本語でスピーチ」で、自分はどうやって日本語を学んだか、これから高校へ入って何を勉強するのか、そして高校卒業後の自分の将来の夢について語りました。

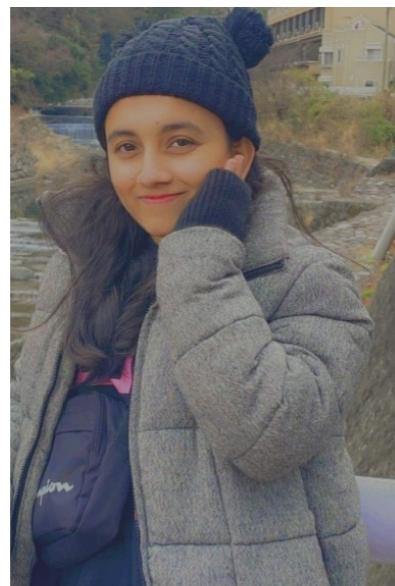
私は、高校2年生になるときに、文系・理系の選択で、文系を選びました。現代文・古典は難しかったですが、友達や先生に分からぬことを訊き、テストで良い点数を取ることができました。高校生活で、勉強以外で心に残っているのは、3年生の体育祭です。コロナの影響をうけて色々と制限を受ける中、みんなで最後の体育祭を楽しく迎えました。

3年生になると、勉強だけではなく、進路のことも考えなければならなかったです。自分は専門学校と大学のどちらを選ぶかを迷い、たくさんの人人に聞き、その結果、自分がやりたいことを見つけました。日本語でスピーチに出たときは、私はキャビンアテンダントとITに興味を持っていたのですが、今は、ビジネスマネージメントとITをやりたいと思い、専門学校ではなく大学に進もうと考えました。

これから、大学に入って、自分がやりたいことを学んで、自分の目標を達成できるようにしたいです。勉強だけではなく、友達や、今まで支えてくれた人々と、もっと良い関係をつくり、良い社会人に成長するように頑張りたいと思います。



2019年当時



2022年現在

10. 劉 頬青さん（中国）

リュウ

インチン

第25回大会参加（2019年）

輝かしい銅賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。私は今IT系の外資会社で物理　化学　数学を基礎とした製品研究開発設計を中心とした開発業務を行ってきております。

日々、理科系としての数学的な物理的な化学専門用語が中心となる、会社業務会話の中で過ごしてきた私にとって、先生の皆様の日本語の緻密さ、洗練された日本語の単語、優しさ溢れる言葉の中に強い信念と和言葉の優しさの中に力強さと絆としての助け合う意識のたいせつさに感銘を受けました。

私は当時、スピーチ原稿を旨く書けずに、皆様にはご迷惑ばかりおかけしておりましたが、皆様にいつも辛抱強く、暖かく見守っていただきながら、応援とご指導いただきましておかげで、受賞させて戴くことができました。何度もリハーサルをやっていただきまして、そしていつも先生方の皆様全員が現場に来ていただき、心からの声援と応援と細やかなご指導をしていただきました。海外にいても応援をしてくれる方もいらっしゃいました、大変励みになりました。心から感謝いたしております。

今後も日本語の言葉としての美しさ、優しさ、躍動感、意味深さ、力強さ、また文章としての広がりと奥深い日本語の勉強を常に継続させていただきながら、今後も協会のイベント及び発展にいろいろな形でご協力させて頂きたいと思っております。

先生達との共有した時間の中で、大人としての言葉の中に繊細で洗練された人生感を感じる事が出来ました。継続して学びながら素晴らしい勉強の機会と経験を得る事が出来まして、先生の皆様、協会の皆様に心から感謝申し上げます。

この経験を基に諸先生の皆様、日本の友人、海外の友人、職場での人間関係をより深くたいせつにしながら、一日一日をたいせつに人生を歩んで行きたいと思っております。



2019年当時
(前列向かって左から2番目が劉さん)



2022年現在

11. 叶

森さん（中国）

第25回大会参加（2019年）



2019年当時



2019年当時

今、私は高校一年生です。今年の2月に行きたかった飛鳥高校に合格しました。

スピーチ大会に対して、私はたくさんの懐かしい気持ちを持っています。当時、私の日本語はとても下手で、自信もありませんでした。

日本語の先生に教えてもらって、少しずつ自信がついてきて、いっぱい練習もして、スピーチの内容を相手に伝えなれるようになりました。参加した時の、緊張してドキドキした気持ちは、今も覚えています。たくさん準備していましたが、壇上に立った時、「本当にいいスピーチができるの？」と心の中で声が聞こえた。発表している時は、スピーチをしている時は頭の中が真っ白になった。

でも、とても悔しかったです。スピーチをしている時は、頭の中では真っ白になりました。何回も練習して覚えていたはずの内容もし忘れました。今でもときどき「あの時もっと頑張ればよかった」と思っています。しかし、私はこの時まで、こうなに多くの人の前で話したことは一度もありませんでした。このスピーチ大会では、私は自分自身に挑戦をしました。そして、私はそれをやり遂げました。

高校の面接試験の時、私はとても緊張していました。でも、私はスピーチ大会に参加したこと思い出しました。「私は、前に何百人の前でスピーチしたことがある。今、目の前の人には二人だけ。だから、私は絶対にできます。」そう考えて、私は気持ち落ち着かせました。リラックスして、先生の質問に答えることができて、高校に合格しました。

スピーチ大会は私にいい経験をくれました。以前の私、困難があることが絶対にできないと思いました。でも、今の私は、どんな難しいことも、やってみよう、困難を克服しようになりました。



2022年現在



実行委員からのコメント

1. 琴崎 馨さん

第22回大会（2016年）・第23回大会（2017年）
第24回大会（2018年）・第25回大会（2019年）

過去5年を振り返って

「日本語でスピーチ」コンテストは、コロナ禍のおかげで、2020年と2021年の開催ができていない。貴重な伝承を途切れてさせるのを防ごうと、今までを振り返った感想を集めた文集をつくることになった。私、琴崎は、2016年から2019までコンテストに関わり、2018年は実行委員長を努めた。

コンテストの効用

コンテストの効用は、なんと言っても、外国ルーツの人たちのイベントをつくることによって、一般の人々の、外国ルーツの人々への認識を高めることができる。また、外国ルーツの人たちに発言、発表の場をあげることは、外国ルーツの人たちにとって、存在の肯定感を与えることにつながる、ということだ。

振り返って思うこと

この「日本語でスピーチ」コンテストが、参加者の成長のきっかけになっているのを感じる。聴衆に発表して聞いてもらうことで、参加者の自己肯定感も生まれる。2019年のコンテストの金賞受賞者・銀賞受賞者とは今までずっと関わっているが、この二人を見ていて、特にその感を強くする。

最後に

コロナ禍が収まって、「日本語でスピーチ」が再開されることを祈っている。



2018年当時
(向かって右が琴崎さん)



2018年当時

私の「日本語でスピーチ2016」



2016年当時（前列中央が黄さん）

私は大田区の「日本語でスピーチ2016」の実行委員長を平成28年に務めました。今、振り返るとこの経験は私にとって大きな財産となりました。委員長になった当初は不安でいっぱいでした。実行委員の方々をうまくまとめられるか、スピーカーを集められるか、大勢の人の前で話ができるなど、ずっと、心配でした。

しかし、実際はそんな心配など不要でした。実行委員はいろいろな提案をして、各々の役割を立派に果たしてくれました。スピーカーは13名も集まりました。本当に感謝しています。

大会当日は多くの方々にお越しいただきました。素晴らしいスピーチや休憩中のゲームなどで会場の雰囲気が大いに盛り上りました。途中席が足りなくなったり、ジュースが間に合わないなど、私の閉会挨拶も含めハプニング続出でした。しかし、お客様、スピーカー、スタッフが一つになって、とても楽しい大会になりました。閉会後暫くしてから、委員長を努めてよかったですと実感しました。

実行委員長を務めたことは私に誇りです。実行委員の方々をまとめ、スピーカーを盛り上げ、来場者の皆さんに喜んでもらい、一つの行事を成し遂げたことは、実行委員長でなければ味わえない貴重な経験でした。この経験を活かしていろいろな活動に携わりたいと考えております。今後も大田区の皆さんと一緒に大田区を盛り上げていきたいと思っております。

3. 青山 春樹さん

第23回大会（2017年）・第24回大会（2018年）・第25回大会（2019年）

実行委員を経験して 感じたこと



2019年当時

一般の若い人達が多く、どのようにして話に入って行けば良いのか相当悩みました。2017年にこの実行委員を拝命し、司会もやらせて頂きましたが、戸惑うばかりでした。自分以上に発表者がもっと緊張している事だと思い、それぞれの発表者の席に行き、駐在時代の話等、自分も最初はあがって何も話せなかった事等話しました。たまたま駐在国からの発表者も居りましたので、駐在時代の食事やレストランの話等をして親しくなりました。

今でも細々と海外の仕事をやらせて頂き、昨年も海外に出掛けていますが、今では心臓に毛が生えて恥も外聞も無く、何処にでも行けると自負しています。



2019年実行委員
(前列左端が青山さん)

4. 横山 美穂さん

第24回大会（2018年）・第25回大会（2019年）

実行委員を経験して 感じたこと、今現在思うこと

私は、2018年には司会、2019年には実行委員長と司会という大役をさせていただきました。受賞者を発表する側でしたが、一番緊張したのはやはり、発表の瞬間だったのを今でも思い出します。また、私も海外生活が長かったので、その国々の文化の違いに戸惑ったこともたくさんあり、皆さんのスピーチを聞いていろいろなことを思い出しました。



2018年当時

きっと母国を離れ、淋しいこと、つらいこと也有ったと思いますが、そんな想いも前に進む力に変えて日本で暮らしている皆さんのスピーチは、とても素晴らしい、元気をもらいました。



2019年当時

日本語でスピーチは、母語が日本語でない方の発表の場だけでなく、交流の場でもあり、国が違ってもお互いに理解しあい、分かり合えるそんな機会にもなっていると思います。

実行委員の経験は、多文化共生というものを今まで以上深く考える機会となり、現在の私の仕事にもつながっています。世界中がコロナ禍となり、外国人の方にとっても一時帰国もままならない現状ではありますが、またこの日本語でスピーチが再開でき、多くの方が参加でし、皆さんと交流できる日が早くくることを願っています。

5

大田区内の 日本語教室一覧

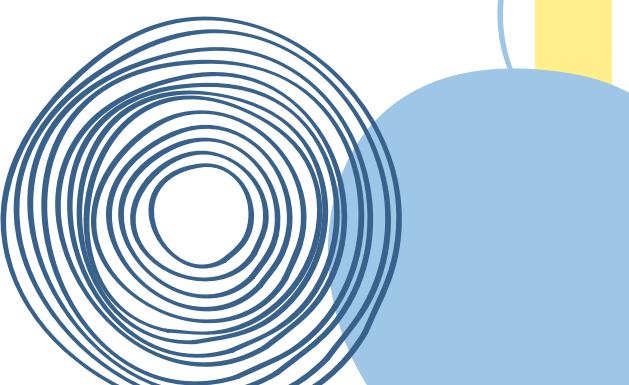
(2022年3月時点)

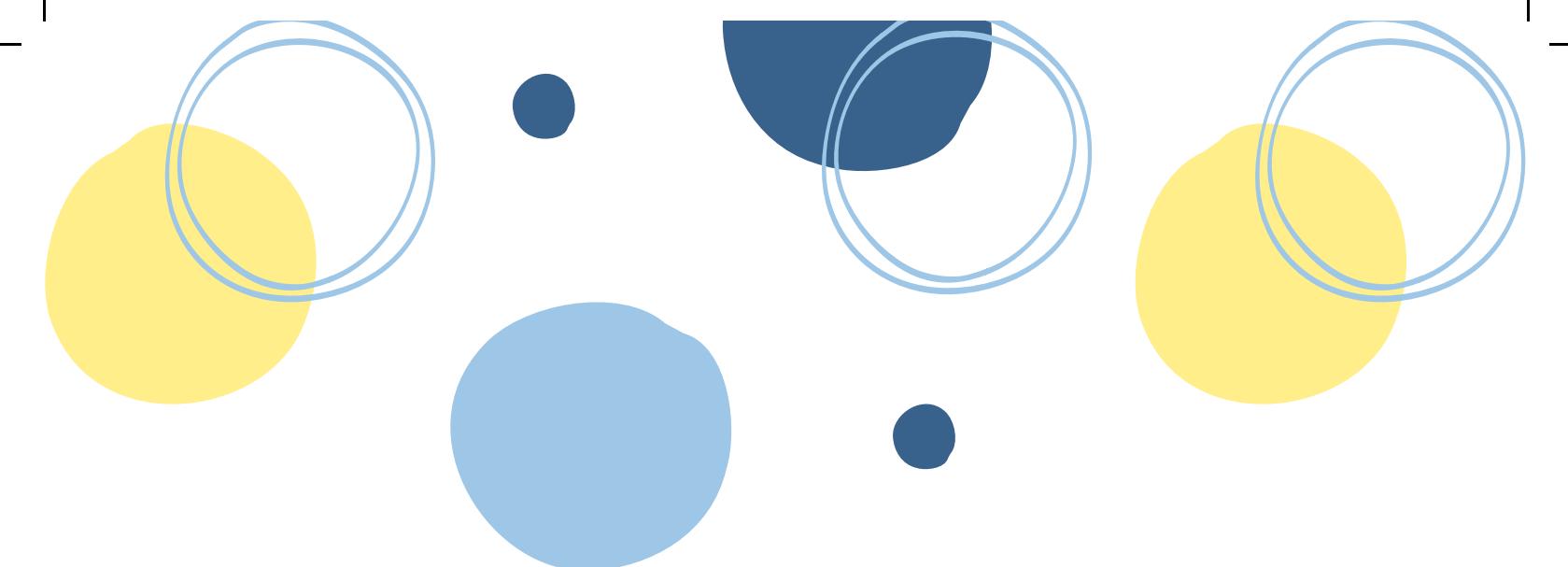
	グループ名 Names of Japanese Classes	曜日・時間 Day and Time	活動中 Classes that are active	対面授業 Face-to- Face	オンライン Online Classes	新規学習者の受入 Accepting any new students
①	にほんごWIT H (Nihongo WITH)	月 Mon PM 7:00～8:30				●
②	OCNet (かまた Kamata)	水 Wed PM 7:00～8:45	●		●	●
		金 Fri AM 10:00～11:30	●		●	●
		水 Wed PM 3:30～5:00	●		●	●
		土 Sat PM 1:30～2:40	●		●	●
③	日本語交流クラブ (Nihongo International Exchange Club)	土 Sat AM 9:30～12:00	●		●	●
④	はじめてのにほんご (First Japanese (Hajimete no Nihongo))	土 Sat AM 10:00～11:30	●		●	
⑤	日曜にほんご会話サークル (Sunday Nihongo Conversation Circle)	日 Sun AM 10:00～12:00				●
⑥	HOPENECT (ホープネット HOPENECT)	金 Fri PM 6:00～7:00	●	●	●	●
⑦	レガートおおた (Legato Ota)	日 Sun PM 1:00～3:00 (2月～3月) (6月～7月) (10月～11月)				
		月 Mon 土 Sat PM 0:00～2:00 AM 10:00～11:30	●		●	●
⑧	はばたき (Habataki (Wingbeat))	月 木 Mon Thu PM 7:00～9:00	●	●		●

	グループ名 Names of Japanese Classes	曜日・時間 Day and Time	活動中 Classes that are active	対面授業 Face-to-Face	オンライン Online Classes	新規学習者の受入 Accepting any new students
⑨	日本語サークル火曜会 (Japanese Language Tuesday Circle)	火 Tue AM 10:30~12:00		●	●	●
⑩	生活日本語'96 (Living in Japan '96)	月 Mon AM 10:00~12:00				
⑪	うぐいす日本語教室 (Ugusui (Warbler) Japanese Language Class)	火 木 Tue Thu PM 7:00~9:00				
⑫	にほんご21 (Nihongo 21)	水 Wed AM 10:00~11:30				
⑬	日本語サークル木曜会 (Japanese Language Thursday Circle)	木 Thu AM 10:00~12:00	●		●	
⑭	OCNet (おおもり Omori)	金 Fri PM 1:30~3:30	●		●	●
⑮	日本語サロン (Japanese Language Salon)	土 Sat PM 2:00~4:00	●	●		
⑯	Otaにほんご広場 (Ota Nihongo Hiroba)	月 Mon PM 7:00~9:00	●	●		●
		火 Tue AM 10:00~12:00	●	●		●
⑰	日本語ぐるりっと (Nihongo Gururitto)	月 水 金 Mon Wed Fri AM 10:00~12:00 PM 2:00~4:00	●	●		●
⑱	日本語カフェおおた (Nihon-go Cafe Ota)	水 Wed PM 7:00~8:30	●		●	●

※詳しくは、以下の大田区のホームページをご覧ください。

https://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/for_foreigners_index.html





「日本語で スピーチ」 を振り返る

文集

「日本語でスピーチ」を振り返る文集

発行日 2022年3月

発行 一般財団法人国際都市おおた協会

〒143-0023 東京都大田区山王2-3-7 大森まちづくり推進施設

【移転後（2022年4月5日～）】

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-16-8 2階

おおた国際交流センター（Minto Ota）

電話 03-6410-7981 E-mail info@ota-goca.or.jp

URL <https://www.ota-goca.or.jp/>

協力 大田区、大田区内の日本語教室の皆様、「日本語でスピーチ」文集作成実行委員

無断転載・複製を禁ず